

那須塩原市議会 「敬清会」

行政 視察 報告 書



視察期間：令和4年7月11日（月）～7月13日（水）

I 視察日：7月11日（月）

視察地：佐賀県唐津市

内 容：「唐津コスメティック構想」について

II 視察日：7月12日（火）

視察地：佐賀県唐津市

内 容：「コスメティックファクトリーの取り組み」について

視察地：佐賀県江北町

内 容：「みんなの公園」について

III 視察日：7月13日（水）

視察地：福岡県福岡市

内 容：「ワンヘルス」について

参加議員： 玉野 宏 平山 武

唐津コスメティック構想について

視察地 佐賀県唐津市

視察日 令和4年7月11日

報告者 玉野 宏 平山 武

唐津市経済部企業立地課長畔田嘉陽氏、同コスメティック産業係長森理枝氏より説明を伺った。

唐津コスメティック構想とは、唐津と玄海町を中心とする佐賀県に美容・健康産業の集積地をつくる取り組みであり、推進に当たっては企業進出・地場企業の事業拡大、異業種からの参入、地場生産者の新規参入を図ることとしている。

コスメティック構想の目的・背景・現在の取り組みとしては、ジャパンコスメティックセンター（JCC）設立がある。2012年1月仏化粧品企業のアルバートミューラ氏の来唐があり、翌2013年4月には唐津市と協力連携協定の締結、同年11月に産学官連携組織ジャパンコスメティックセンターを設立した。これにより多様な人材の交流・技術の集積・地域資源を生かした経済活動とグローバル市場への展開を図ることになった。

唐津市は化粧品原料の調達と供給基地として適しており、ミカン花・ホーリーバジル・ローゼル・離島の椿や耕作放棄地の活用をはかっている。令和3年度までに商品化・販売されたものは化粧水・リップクリーム・シャンプーリンス・石鹼等であり、活用素材はカミメボウキ・レモン・白いきくらげ・ヤブツバキと広がっている。高島では二ホンミツバチのミツロウを使った商品化、玄海町では薬用植物栽培研究所をオープンしている。ここでは薬草100種、薬木50種、薬用植物栽培温室棟・甘草栽培温室6棟がある。

産学官連携としても九州内で11大学、東京農大・東京理大・大阪大とも共同研究に取り組んでいる。今年2月19日には高校生・大学生対象のシンポジウムを開催した。唐津市総合計画後期計画において、令和2~6年度にはコスメ企業誘致5件、地場事業者のコスメティック産業への新規参入を5件、市内新規雇用を64人と数値目標化もしている。地域性・地域特性を活かした構想の推進を感じた。



唐津オーガニックショップにて

コスメティックファクトリーについて

視察地 佐賀県唐津市

視察日 令和4年7月12日

報告者 玉野 宏 平山 武

7月12日午前、唐津市議会事務局の案内でコスメティックファクトリーを訪問した。暮部達夫氏よりファクトリー建設活動開始までの経過を伺った。

ファクトリーの建設は唐津市所有で、未使用になっていたものであり、コスメティック構想を進めたい唐津市とすでに京都市でコスメティック産業を行っていた暮部氏の出会いから始まった。また、建物内部構築は唐津市と意見調整に時間と配慮が多々あった。国内コスメティック会社は大企業が多く商品製造のロットも大きいため、地方に立地し地域特性を活かすためには、ロット化で商品生産を行う企業大型化は向かず、小生産と地域に存在する多様な植物・果樹・種子類を活かすべきとの理念の相違の調整があった。地域性特色を出すため事務室を会議室ミーティングが行えるオープンスペースに、みんなの力で造ったとの思いを取り入れるために、壁面は岡山県の杉板を、地元学生や地元の若い人たちで手貼り作業により行った。工場という冷たさではなく、みんなで仕事を共有している穏やかな空気感であった。製造室で白衣に着替えクリーン室内へ行くと、小ロットであり、多様な新規製品化の要望に応えるため機器等も高額なものではありませんとの話があった。各地方から送られてくる素材の保冷庫、安全化を図るための安定化室、窓越しで地元女性が商品にラベルを張る作業も見られた。小ロット、多要望地元雇用に応えるため、糠から作った日本酒は栃木県大田原市から来てい

ます、との話を聞き、唐津市と大田原市のつながりや田・コメ・日本酒が化粧品につながっていることに地方の時代地方の未活用素材に気付き、新しい地域力につながると感じた。



みんなの公園について

視察地 佐賀県江北町

視察日 令和4年7月12日

報告者 玉野 宏 平山 武

7月12日午前に唐津コスメティックファクトリーを視察し、唐津駅より備前山口駅へ。駅より江北町役場へ行き、西原好文議長大島浩二基盤整備課課長代理から江北町とみんなの広場について説明を受けた。

人口16,000人の炭鉱の町であったが、現在人口9,500人となり小世帯化が進み、町中心部への人口移動と他地域の過疎化が同時に進んでいた。このため町長案の子育てママタウンカフェを立ち上げ、若いお母さん方と中心地を再活性化するための意見交換会を重ねた。また、計画段階から市民の理解が必要であるということから市民全体向け・女性向け・業者説明会を行った。公園化まで佐賀県アドバイザー事業を通し、ランドスケーププランナー佐賀県出身馬場氏の紹介を受けた。馬場氏より東京南池袋公園と豊島区役所を見ることをすすめられ議員視察を行い、両施設を設計したランドスケーププラスとの建設に向けての構想のやり取りが始まられた。ランドスケープからは、この公園で何をしたいか町民の声を集めてくださいとの話も受けた。公園は町の中心部にあるショッピングセンター裏の空き地を町で購入しプロジェクトが始動した。

全体事業費は土地購入費を含め5億9,400万円。みんなの公園の趣旨に基づき、多様な使い方をしたく、財源は公園法に縛られないよう過疎対策事業債を活用した。子ども向けの公園とはせず、遊具等は年齢層に偏らない木製を取り入れている。

町のシンボルである御岳山は前記ショッピングセンターと幹線道により景観が損なわれていた。公園での多様な活動の舞台となる「芝生広場」とリビングのようにくつろげる空間とした。建設前の同地から御岳山は道路、ショッピングセンターがふるさとの山の視界を妨げていたため、新公園北側に築山つくり、公園、築山・御岳山の視界景観を取り戻していた。

カフェが併設されているこの公園を指定管理として運営をしている立石良作氏は、人々の交流が増えていましたと話してくれた。東西は生垣で敷地を囲んでおり周辺環境の中で箱庭のような世界観を作り出している。当市新庁舎と那須塩原駅周辺の景観づくりに参考になること大であった。



福岡県ワンヘルス条例について

視察地 福岡県福岡市

視察日 令和4年7月13日

報告者 玉野 宏 平山 武

7月13日(水)午前、福岡県ワンヘルス条例について福岡県ワンヘルス協議会を訪問し、公益財団法人福岡県獣医師会専務理事今村和彦氏、同総務課長古川道夫氏の話を伺った。

ワンヘルスとは「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」と捉え、これを一体的に守ろうという考え方で世界的に取り組みが進められているものである。

人獣共通感染症、生物多様性の損失、地球温暖化といった人・動物・環境の各分野にまたがる問題を解決するには様々な分野の専門家や行政だけでなく、県民・企業・民間団体なども一緒になってワンヘルスを推進していくことが重要となる。2016年11月北九州市で開催された第2回世界獣医師会・世界医師会ワンヘルスに関する国際会議においてワンヘルス実践の基盤となる「福岡宣言」がまとめられ、それ以降福岡県ではワンヘルスの推進に取り組んでいる。

2020年12月には県会議員提案により全国初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が制定された。福岡県はアジアとの交流が古来よりあり、735年の天然痘の大流行は福岡県太宰府から発生した歴史がある。ワンヘルスの条例化には5年前より始まっていたが、今コロナの世界的流行が追い風になり県内獣医師会・医師会で取り上げられた。また両医師会の全国会長の出身地が福岡県の同じ町だったことなどの機運が重なり、両会のワンヘルスの認識が共有され、これが県会議員を後押しし条例化は全議員が賛

同した。県内では市町でのワンヘルス条例化の取り組みが進み、太宰府他2町が条例化している。11月11日から13日には第21回アジア獣医師会連合大会が開かれる予定である。アジアからのワンヘルスアプローチの実例報告、シンポジウムがある。

専務今村和彦氏の前職は福岡県職員であり、国内でこの条例が無かったため福岡県での条例化のため一字一句より作り上げたとのことであった。条例を具現化する仕事は福岡県獣医師会が行っており、蔵内勇夫獣医師会長・横倉義武日本医師会名誉会長のサポートが大であったこと、国内外の来県者が増えており、都市戦略として環境観光、健康感染対策を進めている県としたいと話されていた。ワンヘルスの推進は行政の縦割りを崩し横の部局とのつながりを強めにつながるものである。森林医学の深化が求められ、現在ある公園をワンヘルスの森として海外から修学旅行や教育の場として整備することが検討されている。また、一次産業を大事にする教育が必要であり、人と動物と環境はつながっている、この感覚は日本人、東洋的なことだと思われる。

現在今村和彦氏は九州産業大学で医学概論、ワンヘルスを講義中のこと。両氏の話は、当市の観光・第一次産業・教育にワンヘルスの理念を取り入れるべきと感じた。那須塩原市・栃木県でワンヘルスの条例化を目指すときは全面的に協力をいたしますとの言葉をいただいた。

